2023年
Vol.2

秋山

とりこ図鑑

山梨県上野原市秋山地区

わたしたち、あきやまがかりです。

秋山の活性化を目指す
11人の大学生 | p.4

きっとあなたも とりこになるよマップ

あなたをとりこにする魅力
スポットを一挙に紹介| p.5

秋山に存在する「ひと・こと」

秋山で「やりたい」を
実現する人々| p. 6〜

都留文科大学教養学部地域社会学科

秋山 とりこ図鑑

わたしたち、あきやまがかりです。…… 04

きっとあなたも とりこになるよマップ／
秋山に存在する「ひと・こと」…… 05

テレワーカー×農家
ワイランド・ブライアンさん …… 06

グラフィックデザイナー
奈良田明香さん …… 08

キャンプ場の管理人
原田翼さん …… 10

民宿のオーナー
原田正文・トモ子さん …… 12

秋山で何かをしたい！そんなあなたに！
秋山未来づくりプロジェクト …… 14

おわりに …… 15

上野原市秋山地区

人口：1,415人（令和5年2月1日現在）
面積：45.14㎢（秋山村誌引用）
豆知識：「ひなづる漬け」という特産品がある。これは、古くから栽培されている東京長かぶの漬物で、甘辛い風味や歯切れの良さが特徴である。

ここは、秋山地区富岡。
緑の山々に囲まれた、秋山を象徴する棚田がある。日本の原風景のような景観から
どこか懐かしさを感じられる。地元の人々が守ってきた景色がここにある。

人々の夢や想いに触れて
あなたもきっと踏み出したくなる
新しい自分を見つけるまち、秋山。

山梨県最東部に位置する上野原市。東京にいちばん近い山梨であるこの場所は、
四季折々の自然と都会の自由さがある。
なかでも、市の南端に位置する旧秋山村(秋山地区)は、
大自然に囲まれながら、キャンプやマス釣り、温泉を楽しめる山梨の秘境である。
このまちに魅了され、このまちで活躍する人々への取材から、秋山の目に見えない価値を発見した。

「おもしろい」をはじめよう

わたしたち、

あきやまがかり

です。

この冊子の編集・発行をおこなった「あきやまがかり」は
山梨県上野原市秋山地区の地域活性化に
都留文科大学地域社会学科の鈴木健大准教授と大学生11名で活動しています。

秋山ブラッシュアップ宣言

秋山地区は、東京都に隣接する山梨県上野原市の南端に位置し、そこには恵まれた自然や秋山を想う人々の存在があります。しかし、近年人口減少や少子高齢化が進み、2025年には限界集落化する恐れがあります。そこで、私たち「あきやまがかり」は、秋山を盛り上げようと2020年から活動を始め、１期生に続き、2022年から新たに２期生の11名で活動しています。活動テーマは「秋山ブラッシュアップ宣言」。

「秋山の魅力を発信しています」

秋山には棚田の風景や美しい自然、秋山を盛り上げようと活動する人々などたくさんの魅力に溢れています。「あきやまがかり」２期生は、秋山の特産物や秋山を想う人々の存在など今ある地域資源を最大限に発揮させ、秋山のさらなる魅力を発信していきます。秋山の知名度向上やブランド力向上を目標に、秋山で暮らす人々や他の地域の人々に秋山の魅力を知ってもらうこと、これが私たちのテーマです。

冊子に込めた想い

この冊子は、秋山の活性化のために頑張っている方の想いを知ってほしい、「秋山に関わりたい」「秋山のために何かしたい」と秋山への想いを持ちつつ、一歩が踏み出せない方の後押しをしたいという気持ちを込めて作成しました。
今この冊子を読んでいるあなたのファーストアクションのきっかけとなれば嬉しいです。

これまでの「秋山とりこ図鑑」の作成の様子や今後の活動の様子はこちらから

Instagram　Twitter

Instagram：@akiyama_gakari_s ／ Twitter：@akiyama_gakari

きっとあなたも

とりこになるよマップ

洋食屋
ビストロ-ラント

おすすめは当店自慢のビーフシチュー。

山梨県上野原市秋山7463
☎0554－56－2339
11:30~21:00、木曜定休

和食屋
そば・お食事処 あき山

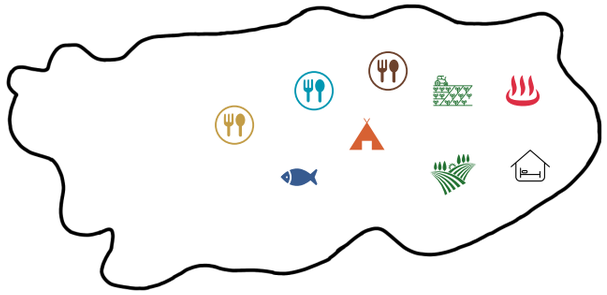
お蕎麦はもちろん、トンカツや生姜焼きも。

山梨県上野原市秋山3944-1
☎0554－56－2500
12:00~20:00(LO19:30)
月曜定休

和食屋
王の入園

季節の料理が楽しめる。

山梨県上野原市秋山8190
☎0554－56－2951
10:00〜18:00
木曜定休
https://r.goope.jp/oonoirien/



秋山温泉

源泉かけ流し単純アルカリ天然温泉。

山梨県上野原市秋山2210
☎0554－56－2611
10:00~21:00(土日祝は9:00から営 業)
第4月曜定休
(ただし第4月曜日が祝日の場合は翌平日が休館日)、レストラン は毎週月曜定休
☞http://www.akiyamaonsen.com/

上野原市営マス釣場

釣り以外につかみどりやBBQなども楽しめる。

山梨県上野原市秋山7637
☎0554－56－2320
通年8:30~17:00
水曜定休※8月は休まず営業
☞https://www.uenohara-fishing.jp/

富岡の棚田
ブライアンさん農業体験場
緑と太陽の丘キャンプ場
民宿「小萩野」

秋山には魅力溢れる「ひと」「こと」「もの」が存在する

あなたは今暮らしている地域や故郷とどのように関わっていますか？

秋山には、
農業を通して移住促進に携わる人
外からデザインを通して彩りを届ける人
キャンプ場で地域に「楽しい」をつくる人
民宿で外の人と地域を繋げる人

ここにはいろいろなかたちで秋山と関わる人がいる。

地域への関わり方は一つじゃない。
内からだって外からだって繋がれる。

５人の姿を覗いて、あなたなりの地域との関わり方を見つけてみませんか。

農業体験イベントにて、講師として参加者を見守るブライアンさん。

ワイランド・ブライアンさん
2006年に日本に来て10年ほど東京で暮らした後、2020年の2月に秋山に移住。YouTubeやCMの映像編集の仕事をしており、現在は、秋山でテレワークをしながら生活している。

テレワーカー×農家

ワイランド・ブライアン さん

田舎暮らしや自給自足の生活に興味をもち、秋山に移住してきた米国人のブライアンさん。パートナーである韓国人のソンさんと一緒に野菜を作ったり、ヤギやニワトリを育てたりなど、秋山暮らしを満喫している。秋山をより良くしたいという想いから農業体験やワークショップも行っているブライアンさんに、移住者ならではの視点で秋山の生活や魅力を伺った。

支え合いの「自給自足」

自給自足の生活を実現するべく、ヤギとニワトリの飼育や野菜の栽培を始めたブライアンさんであったが、秋山の人々と関わるうちに「自給自足」の考え方がガラリと変わったという。「自給自足といっても当たり前に全部自分でできるわけではない。秋山で出会った人は、私が知らない知恵と技術をもっていて、そういった方々の助けがあるからこそ今の生活がある」と語る。ブライアンさんの自給自足の生活は、秋山の人との関わりから始まった。

（上）ブライアンさんの畑で農業体験をしている様子。このイベントは定期的に開催しており、地元だけではなく、都内から来た方や家族連れまでさまざまな方々が参加している。この農業体験が外と秋山をつなぐ場になっている。
（右）愛犬のシシちゃん。
（下）農業体験で収穫したさといも。素焼きにして本来の味を楽しむ。

好きなことを秋山で

「自然に囲まれていて、良い水や土、木などの資源が十分にあるところが秋山の魅力だ」。私たちも秋山を訪れるたびに、「秋山の生活は、自然と住民の繋がりでできている」と感じる。

また、年を追うごとにきれいな野菜が収穫でき、自身の成長も感じられることが農業の面白さのひとつだという。「毎年旬の野菜を植えるが、その繰り返しはつまらなくない。むしろそれが私の人生をより良くさせる」と笑顔で語ってくれた。

「信頼」を掴む

これから秋山に移住したいと思っている方へのアドバイスを伺った。重要なのは、自身も大切にしている「信頼関係」だという。自治会や行事などに顔を出すだけで、地域住民の方に少しでも安心してもらうことができる。そうすることで、徐々に信頼関係を築いていけるという。「地域の方が大切にしていることは、自分も同じように大切にする」というメッセージに胸を打たれた。

次世代に繋げたいもの

最後に二つの夢を語ってくれた。一つ目は「育てた野菜を活用したイベントの開催」、二つ目は「リラックス空間の創出」だという。この夢には、秋山に帰ってきた人や新しく訪れた人のために秋山の生活を残したいという想いが詰まっている。

奈良田明香さん
1990年上野原市生まれ。高校卒業後、多摩美術大学の情報デザイン学科に進学し、デザインのいろはを学ぶ。大学卒業後は、東京の飲食店を経営する会社のデザイン部に入社し、現在は、化粧品メーカーでデザイン業務をしつつ、尊敬するデザイナーのもとで勤務している。

デザインの作業をする奈良田明香さん。普段から自宅で作業するそうで、取材に行った際に、その様子を見せてくれた。

グラフィックデザイナー
奈良田明香さん

続いては、上野原情報メディア『めためたUENOHARA』(以下、『めためた』)の回覧版・ポスターのデザインを担当している奈良田明香(ならだ さやか)さん。奈良田さんは、東京に在住しながらも、『めためた』を通して、秋山地区内外に活力を注いでいる。

そんな奈良田さんに、現在の活動のきっかけや想いなどを伺った。

（上）奈良田さんがデザインを担当した『めためたUENOHARA－2022年No. 2』

（右）『めためたUENOHARA』の公式Instagram／@metameta.uh
上野原市の移住者や空き店舗活用の紹介をしている上野原情報メディア。奈良田さんがこれまでデザインした回覧板もアップされています！

（上）奈良田さんのご自宅。普段この部屋で作業し、アイデアを膨らませるのだとか。壁には可愛らしい小物や写真があり、温かみを感じさせる。

（下）過去のデザインを振り返る奈良田さん。これまでつくってきたデザインのほとんどは、ファイルにまとめているのだとか。

自分の想い×地域にできること

奈良田さんは、2021年の夏から『めためた』の回覧版とポスターのデザインを手掛けている。そのきっかけには、上野原のことが好きな知人の存在があるという。その方は上野原での在住経験はないものの、東京からアクセスも良いことから、たびたび上野原を訪れるそうだ。その方から上野原に移住者が増えたり、素敵なカフェができたりしていること等を教えてもらい、多様な人々が地元にいることを知ったという。

そこで、改めて上野原の良さを発見した奈良田さんは、「いろいろな人たちが交わる場に自分も入りたい」という想いと以前からあった「地域デザイナー」への関心から、『めためた』の回覧版の制作に携わるようになったという。

ファーストアクション、何をする？

外から地域に携わる活動をする奈良田さんに、地域のために何かしたいという方へのアドバイスを伺った。「実体験に基づくのですが、誰かに話してみるというのが、一番早くことが進むのではないかなと思いますね」。

奈良田さん自身も、上野原で自分のスキルを活かして何か始めたいという想いから、『めためた』のInstagramからコンタクトを取って、そこから上野原市役所に繋がり、とんとん拍子で現在の活動に至ったという。まずは、明確にやりたいことが決まっていなくても、「地域のために何かをしたい」という気持ちを声にしてみることが大事なのだと思った。

夢は「交流をデザインすること」

「東京で仕事をしたり、秋山で仕事をしたり、上野原で仕事をしたり、一点に留まらず、いろいろな所で仕事をしたいです。そこでデザインを通して、その地域の魅力を多くの人に広めて、自分が好きな場所に様々な人が呼べるようになったらいいなっていうふうに思います」と楽しそうに語る奈良田さん。以前、奈良田さんは、自身でデザインしたポスターの中のパン教室の情報を見て、その教室に参加したという声を耳にしたそうだ。その時、「自分の作成したポスターが交流の一部になれた」と感じ、嬉しく思ったという。この出来事も、奈良田さんの夢に繋がっているのかもしれない。

キャンプ場の管理人

原田翼 さん

秋山で生まれ育った原田翼(はらだ つばさ)さん。現在は「緑と太陽の丘キャンプ場」という秋山にあるキャンプ場を指定管理者として運営している。そんな翼さんに、故郷への想いとこれからについてお話を伺った。

秋山で生み出す好循環

「児童養護施設にいる子どもたちを雇ってあげられる場所を秋山につくりたい」。

12年間の児童養護施設での勤務を経て、児童福祉の仕事を秋山でしたいと思った翼さん。そこで、施設の子どもたちは基本外泊ができないという背景を踏まえ、年に一度、無償で施設の子どもたちを自身のキャンプ場へ招待したいと考えた。また、キャンプ場に来てくれた施設出身の子に就職の場としてもキャンプ場を提供したいという。

さらに、次世代の施設の子どもたちに、自分と同じ環境で育った先輩の働く姿を見てもらい、施設を出た後の働く場として自身のキャンプ場を選択肢の一つに入れてもらうことで、新たな好循環を生み出したいという夢も生まれたそうだ。「児童養護施設で育った子どもたちを秋山でたくさん見たい。幸せになってほしい」と語ってくれた。

秋山への想いや今後の夢を語る原田さん。ご自身のキャンプ場や秋山の未来について真剣な眼差しで答えてくださった。

原田翼さん
1984年秋山生まれ。谷村工業高校卒業後、大学進学と同時に一度秋山を離れる。大学卒業後、都留児童相談所と富士吉田の児童養護施設勤務を経て、37歳の時にパートナーの陽菜(ひな)さんを連れて秋山にUターン。

少年時代の活気を再び

秋山で毎年行われる「ふるさと祭り」の来場者が年々減っているのを見て、「自分が生まれ育ったところがなくなりそうになるのは、ちょっと嫌だな」と今の秋山に寂しさを感じている翼さん。自身の活動を通して、少年時代の秋山の活気を蘇らせたいという。「テントサウナとかドラム缶風呂とか、そういう面白いことができたらいいな」と今後の夢を語ってくれた。

あらゆることに挑戦し、秋山を新しいかたちで次世代に繋げていくという視点は聞いている私たちもワクワクするものだった。

「変化」を生み出し、受け入れる

「これからの時代は、他の地域の方や新たなものを受け入れなければならない」。

そう語る翼さんに、秋山で今後活動していきたいと考えている人へのメッセージを伺った。「新しいことを始めるのって結構勇気のいることだと思うけど、怖がらないでほしいな。もし会う機会をつくれたら、ざっくばらんに話したいです」。

これまで自ら積極的に行動してきた翼さんだからこそある、受け入れようとする姿勢と新たな夢にも果敢に挑戦し続ける翼さんの姿に、私たちは胸を打たれた。

（上）左から原田翼さん、陽菜さんご夫婦。仲睦まじく支え合いながらキャンプ場の運営をしている。
（右）焚火でこんがり焼いたホットドッグ。
（下）緑に囲まれたキャンプ場。インタビューの際は、特別に焚火のセットや温かいキャンプ飯なども用意していただいた。

緑と太陽の丘キャンプ場
山梨県上野原市秋山5030番地
☎ 0554-56-2869

民宿のオーナー

原田正文さん トモ子

秋山にある民宿「小萩野」を運営する原田正文(はらだまさふみ)さんとトモ子さん。「小萩野」を開いたお二人は、一度都会での暮らしを経て2011年、この民宿を40年ぶりにリニューアルオープンした。閑静な土地と自然を求め、故郷へ戻ってきたお二人に話を伺った。

（右上）正文さん
1953年秋山生まれ。都留専門学校を卒業後、横浜で電気工事士として勤務する。その後、トモ子さんを連れて秋山にUターンする。
（左上）トモ子さん
1949年広島県生まれ。大学卒業後、小学校教員や他の仕事に勤める。後に秋山にIターンする。

（右）民宿「小萩野」のホームページ
詳しい情報や利用予約はこちらまで→

山梨県上野原市秋山2093
☎ 0554-56-1006

民宿「小萩野」。100年の合掌づくりの古民家を山形県から移築した素泊まりの宿。
古民家一棟貸し切りの基本料金は24,000円(4名まで)。キャンプ場のみの利用もできるそうだ。

（上）「小萩野」で平飼いされているニワトリ。庭中を駆け回る様子を見ることができる。

（下）ワイン樽を埋め込んだ自慢のコテージ。
炊事道具、部屋等の使用料1名につき、2,000円で15:00~25:00の間、宿泊客は利用することができる。

人と人がつながる場所「小萩野」

「小萩野」は、森の中にある民宿で、ニワトリやヤギを見ながらホッとするひと時を感じられる場所だ。オーナーのお二人の温かい人柄と澄み切った空気が、人々にまたここに来たいと思わせる。

また、お二人は「小萩野」で、田舎に移住を考えている30~40代の出会いの場をつくるため、婚活イベントを実施している。嬉しいことに、このイベントで出会った人達ですでに結ばれている人がいるという。結婚して秋山に戻ってくる人もいるそうで、移住促進にも貢献している。

宿泊客との交流から生まれるもの

外から「小萩野」の宿泊客によく「東京のこんな近くに自然に囲まれた場所があるんだ」と驚かれるという。このような宿泊客との会話から、「林間学校をするのがいいと思うのよ、廃校になった旧桜井小学校とか使ってない施設を使ってさ。ちょっと手入れして宿泊施設みたいにすれば、きっと自然を学ぶために小さい子とかが来てくれて、いずれはここに住みたいなって思ってくれると思うの」と、東京から最も近い秋山の自然を売りにしたアイデアをトモ子さんは熱く語ってくれた。このトモ子さんの熱量は、秋山に賑わいの声が蘇る未来を予感させる。そして秋山の「働く場の創出」と「空き家の活用」にも繋がる。民宿の運営を通して、地域内外の人とも触れ合うからこそ生まれるアイデアだと思った。

今後の秋山に期待しています

最後に、秋山をより良くしようと活動している理由を伺った。「自分が生まれた故郷だからだよ」と笑みを浮かべながら話す正文さん。しかし笑顔から一転、昔は子どもがたくさんいたのに、今は遊んでいる子どもの声が聞こえなくなってしまった故郷を寂しく感じる、という。

現在行っている活動は、故郷を想う気持ちと、子どもたちの声で賑わう昔の秋山のような活気を取り戻したい、という気持ちから生まれている。私たちも、自然の中で駆け回る子どもたちの声で、秋山の未来が一層賑わうことを願う。

地域のために何かしたい！そんなあなたに！

秋山未来づくりプロジェクト

「秋山未来づくりプロジェクト」は、2020年に秋山青年会メンバー内から発足した、秋山の活性化を目指して活動している団体です。

目指すのは秋山地区の人口増加

2022年現在は10名のメンバーで、秋山の“人口増加”を目的に、移住・二拠点生活・Uターンを考えている方に向けて、土づくりから収穫までの過程を数回に分けて体験できる農業イベントを実施しています。他にも間伐材を活用したスウェーデントーチの販売なども行っており、活動の幅は多岐に渡ります。また私たち「あきやまがかり」と秋山の懸け橋になっていただくなど、外と秋山をつなげる活動も行っています。

活動の中で感じるやりがい

代表者の有馬孔志さんにお話を伺ったところ、コロナ禍で思うような活動はできていなかったものの、プロジェクトを通して沢山の人との繋がりができたことや、同じ志を持つメンバーと試行錯誤しながら、アイデアを形にしていくことにやりがいを感じているそうです。

この活動に参加したい！関わりたい！という方はお気軽にこちらまで

【秋山未来づくりプロジェクト】
✉ akiyama56mirai@gmail.com

普段の活動の様子は右のFacebookからご覧いただけます

Facebook：@akiyama.miraidukuri

私たち「あきやまがかり」から

冊子を作成する中で、インタビューにご協力をいただいた方々のように、地域を自己実現の場として捉えて地域で活躍することが、そこに住む人々の活気が高まり、ひいては地域活性化につながるのではないかと実感しました。また、インタビューを通して、秋山の活力や人々の想いなどの目に見えない価値を肌で感じました。ぜひ読者の皆様にも、この冊子を通してその価値を体感していただきたい、そして秋山という地域を知ってもらいたいという想いも強まりました。今後も私たち「あきやまがかり」は、秋山地区の地域活性化の一助となるよう活動していきます。

この冊子に関わってくださった全ての皆様へ

この冊子を作成するにあたり、インタビューにご協力いただいた皆様は、私たちを温かく迎え入れてくださいました。冊子の企画当初から支援してくださった上野原市役所の職員の皆様をはじめ、インタビューに協力してくださったワイランド・ブライアンさん、奈良田明香さん、原田翼さん、民宿「小萩野」の原田正文さん･トモ子さん、秋山未来づくりプロジェクトの有馬孔志さん、関わってくださったすべての皆様にお礼申し上げます。

秋山
とりこ図鑑
山梨県上野原市秋山地区

発行人
鈴木健大

編集
朝みなみ
河野夏羽
塚田ことみ
土屋龍誠
細田夏生

発行・編集
都留文科大学教養学部地域社会学科
准教授鈴木健大ゼミ「あきやまがかり」
Tel　0554-43-4341
Mail tk-suzuki@tsuru.ac.jp

発行日
2023年3月

「秋山で何かしたい！」と思った方のための相談窓口

上野原市役所総務部政策秘書課

山梨県上野原市上野原 3832
政策担当・秘書広報担当 0554-62-3191
city.uenohara.yamanashi.jp (山梨県上野原市 公式サイト)